

令和4年度 小金井市立緑小学校 第6学年 授業改善推進プラン

令和4年度全国学力・学習状況調査の結果より

国語	○どの設問に対しても概ね都や全国に対して正答者の割合は高い。特に文章を読んで内容を把握したり、その文章のよさを書いたりすることについて高い正答率が見られた。しかし、一部の漢字を書く問題では正答者の割合が都の平均を下回っているため、漢字ドリルを活用しながら繰り返し練習をしたり、日常的に漢字を使って文字を書くことを意識したりするなどして定着を図る。
算数	○どの設問も都や全国に対して正答者の割合は高い。特に記述式の問題では、正答者の割合が都や全国より高い。また図形の問題では、都や全国に比べて高くなっており、図形の意味や性質、構成の仕方について定着が図られていることが分かる。しかし、割合の問題では、正答率が比較的低かったため、数量と割合の関係性についてさらに復習が必要である。
理科	○どの設問に対しても概ね都や全国に対して正答者の割合は高い。特に実験で得た結果を分析して自分の考えを書く記述式の問題では、正答者の割合が都や全国より高い。しかし、実験用具の名称の問題については全国や都の全国平均を大きく下回っているため、普段の授業から器具の名称や使い方を身に付けることができるようにする。

	1学期の成果	2学期以降への課題	具体的な改善策
国語	○話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の立場をはっきりさせて意見を言ったり、疑問点を整理して質問をしたりすることができた。 ○教材文を読み、筆者の主張と事例などの関係を本文を基に押さえて文章全体の構成を捉えるとともに、筆者の考えに対して自分なりの考えをもち、文章にまとめることができた。 ○自分の考えをまとめる際はICT機器を活用したり、自分の能力に合った学習シートを選択したりして書くことができ、児童同士が積極的に意見を交流しながら学ぶことができた。	○登場人物の相互関係や心情などについて、行動や会話、情景などの表現に着目して想像力を働かせて豊かに読むことができるようにする。また、文の構成を捉えて要旨を把握することができるようにする。 ○目的や意図に応じて簡単に書いたり詳しく書いたりするとともに、事実と感想、意見とを区別して書くなど、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫できるようにする。また漢字の定着を図る。 ○読書を日常的に行い、多くの本や文章を読むことの意義や楽しさを実感できるようにする。	○物語文では、「何が書かれているか」だけでなく、「どのように描かれているか」という情景描写などの表現にも着目して読ませる。 ○文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を推敲する習慣付けを促す。また、語彙を豊かにするために国語辞典を積極的に活用する機会を設ける。家庭学習で漢字練習を繰り返し行うなど確かな定着を図る。 ○地域図書館の団体貸し出しを利用したり、ブックトークをしたりしながら、児童が幅広い本と出会えるように読書環境を整える。
社会	○ICT機器を活用し、主体的・対話的で深い学びのスタイルをつくることができた。 ○その時間のめあてを解決するために教科書、資料集、動画などから必要な情報を取捨選択できるようになってきた。 ○課題に対してICT機器のチャット機能を使い、自分で考え、友達と意見交流し、グループでまとめることができるようになった。 ○グループでまとめたことを発表し合うことで、異なった考え方やアプローチがあることを知り考えを深めることにつながった。	○歴史上の出来事に対する理解は高いが、なぜ起こったのかと出来事に対する興味関心が低かったため、興味関心をもって学習できるようにする。 ○教科書などから自ら学習課題を立てる時間が少なかったため、時間を確保できるようにする。 ○複数の資料からどのようなことが読み取れるのか考えることができるようにする。 ○まとめの時間を十分に確保する。	○導入方法を工夫し、興味関心をもって学習に臨めるようにする。 ○学習の振り返りを記録し、前時の振り返りから授業の導入に活用することで、学習課題を立てさせる。 ○資料への読み取りに対して、ペアやグループで交流することで、理解を深めることができるようにする。 ○単元や時代のまとめとして、新聞形式にまとめるなどの時間を設ける。
算数	○分数の乗法や除法の計算の仕方を考え、計算ができるようになった。また、計算問題に意欲的に取り組むことができた。 ○計算の仕方や問題の考え方について、自分の考えを書く時間を設け、その後発表することで、考え方をより深く理解することができた。 ○習熟度別学習を行うことで、一人一人が自分に合ったペースで課題に取り組むことができた。 ○考えを基に友達と意見を交流し、解き方について考えを深め合うことができた。	○数直線を書き、式を立てることができるようにする。 ○小数や分数の量感をしっかりと身に付けることができるようにする。 ○公式や、単位の換算などは、成り立ちや関係性を考えながら、その習得に努めることができるようにする。 ○課題に対して、見通しをもち、自分なりの解決をじっくりと考えることができるようにする。 ○既習の学習を生かし、新しい計算の仕方を考えることができるようにする。 ○自分なりに考えを書かせたり、考えを表現したりすることで、自分の考えを確かめたり、友達と考えの違いに気付いたりできるようにする。 ○基にする数にしっかりと着目できるように数直線を書き正しく立式できるようにする。	○小数や分数の乗法・除法の立式をする際、数直線を活用した指導を継続して行い、数量の大きさや数量関係を正しく捉えさせる。 ○具体物などを用いたり、生活場面とつなげたりして数量を把握できるようにする。 ○操作活動を通して、公式の成り立ちを理解させる。 ○写真や絵などを課題提示の際に取り入れ、問題場面を正確に把握できるようにする。また、自分の考えを書く時間を十分にとり、困っている児童にはヒントを与える。 ○既習事項の掲示や補助プリント、授業前の振り返りなど既習事項を想起する場面を取り入れる。 ○文章題や単元の導入で、自分の考えをノートに書いたり発表したりすることで、学習内容の見通しをもたせる。また、友達と意見交流をすることで、新しい考えを見出したり、友達の考え方のよい部分を見付けさせたりする。 ○問題文をまず抽象化したり整理したりし、関連するものや数を数直線に置き換えられるように継続的に指導を行う。 ○授業の初めにイーボードを活用した復習を取り入れたたり、schoolTaktを活用したりして、応用問題を対話的に取り組ませる。

理科	<p>○既習事項や生活体験を生かして、生物のつながりについて考えることができた。</p> <p>○観察や実験を通して、様々な事象の規則性や関係を理解することができた。</p> <p>○実物投影機や映像資料を活用することで視覚的に理解することができた。</p> <p>○ICT機器を用いた実験手順の確認や、実験結果の共有などが行えた。</p> <p>○実験の様子を動画に撮って繰り返し見返すことができた。</p> <p>○安全に実験器具を操作し、すべての児童が自分で実験することができた。</p>	<p>○問題に対してどのような条件を制御しながら実験したら結果が得られるかを考えられるようにする。</p> <p>○問題解決の際、日常生活の経験や既習事項を基にして、見通しをもって観察・実験を行うことができるようにする。</p> <p>○問題や実験の目的を明確にし、根拠をもって予想を立て、結果を基に考察できるようにする。</p> <p>○実験の結果から分かったこと、新たな疑問やさらに調べたいことを話し合い、発展的な視点をもてるようにする。</p> <p>○考察を共有し合い、考えを深め合ったり新たな疑問を生んだりすることができるようにする。</p>	<p>○日常生活との関連を重視しながら自分なりの見通しや予想・仮説を立て、実験方法を考える場面や、結果から理由や原因、科学的規則性を考える場面を設ける。</p> <p>○十分な理解を図るのに必要な実験ができるよう、実験器具の準備の充実を図る。</p> <p>○自分で調べたり観察したりして得た情報を整理し、主体的に問題解決できるように、考える時間や話し合う時間を十分に確保する。また、発表の場を設け、意見交流をして互いに高め合い、理解を深めさせる。</p> <p>○問題を捉えたり予想したりする際に、既存の知識だけでなく、自身の経験などを基に論理的に考えさせる。そのために導入で問題意識を高めたり友達との考えを共有し合ったりすることで、論理的思考を高めさせる。</p>
音楽	<p>○旋律及び音の重なりと曲想の関わりを理解し、曲にふさわしい表現を工夫して演奏することができた。</p> <p>○長調や短調の響きの変化を感じ取ったり、旋律の重なりや曲の構成を理解したりして演奏することができた。</p>	<p>○曲想と音楽を形づくっている要素との関わりを理解し、表現を工夫する。</p> <p>○声部の役割や、声部と声部の関わりに着目し、聴き合いながら演奏できるようにする。</p> <p>○曲の背景（時代、自然、文化、感情等）を理解し、より深く音楽を捉えられるようにする。</p>	<p>○曲想と音楽を形づくっている要素の関わりを理解し、曲の豊かさや美しさを捉えることから、どのように表現しようとするか明確にし、その姿を求めて表現する経験を大切にする。</p> <p>○声部の役割や演奏上の注意を言語化し、他の声部を聴きながら演奏できるようにする。また、その際、対話の内容を音や音楽で確認しながら実感を伴った活動を展開する。</p> <p>○曲の背景（時代、自然、文化、感情等）を理解し、その内容と音楽表現の結び付きに着目して鑑賞する。</p>
図画工作	<p>○テーマから、思いを広げ、水彩絵の具やパステルコンテ、色鉛筆などを使い、自分だけの世界を表現することができた。</p> <p>○今まで経験してきた技法や材料を使って、和紙を使ったランプシェードを作ることができた。明かりのデザインを考え、場所や生活をよりよくすることを考えることができた。</p>	<p>○想像力豊かに自分の思いを表現する力を付けることができるようにする。</p> <p>○今まで使った道具や材料を自分の表現に生かせるようにする。</p>	<p>○友達表現のよさを見合ったり、教え合ったりする場を設定し、自分の表現に生かしたいという気持ちをもたせる。</p> <p>○ICT機器を活用し、美術作品の鑑賞をすることで、感じたことや考えたことを自分なりの言葉でまとめる。</p> <p>○いろいろな道具の使い方や表現方法を紹介したり、繰り返し使う場を設けたりすることで、道具に慣れ、活用方法を広げさせる。</p>
家庭	<p>○朝食に関する学習では、朝食の大切さについて考えるだけでなく、身近な材料を用いて調理実習を行い、食品に含まれる栄養素への関心や意欲を高めた。</p> <p>○自然を生かして、夏を快適に過ごす住まい方や衣服の着方について理解することができた。衣服の手入れの仕方について考え、靴下を手洗いで洗濯することができた。</p>	<p>○学習したことや制作した作品を家庭生活で生かせるように、家庭での実践の機会を増やすことができるように工夫する。</p> <p>○環境問題などの社会事象と関連させ、学習を進める。</p> <p>○ICT機器などを利用し、既習の学習を関連させ繰り返し学習し、知識や技能などを生活の中で生かせるよう工夫していく。</p>	<p>○ワークシートなどで学習を振り返り、家庭での実践に繋げさせる。</p> <p>○ICT機器を活用して、いろいろな見本を提示することで、自らの生活に生かせる作品を制作させる。</p> <p>○手縫いやミシンの使い方など既習の学習内容を確認できるように、ICT機器を活用した資料を作成していく。</p> <p>○製作にあたり、実物標本や段階標本、映像、ICT機器などを活用し、技能の習得のための教材を工夫する。</p>
体育	<p>○陸上運動では、グループで課題を話し合い、記録を縮めるために工夫して練習することができた。</p> <p>○マット運動では、運動に積極的に取り組み、自分の課題に合った場所を選択して、教え合いながら学習することができた。</p> <p>○病原体や生活行動が関わって病気が起こることを知り、健康によい生活習慣を身に付ける必要があることを理解することができた。</p>	<p>○自分や仲間の動きの変化や伸びを見付けたり、考えたことを他者に伝えることで、他者の考えを理解するとともに自己の考えを深めることができるようにする。</p> <p>○各種の運動の特性に応じた技能を身に付けたり、体力を高めたりできるようにする。</p> <p>○集団として規律ある行動をし、集団の中で友達と切磋琢磨しながら運動能力を高めるようにする。</p>	<p>○3～4人組のグループ学習の場を多く設定し、動きのポイントを明確にして、助言・教え合いをさせる。</p> <p>○ICT機器を活用して、動きのポイントと自己や仲間の動きを照らし合わせ、技の出来栄や次の課題を確認するなど、自己の課題を見付けさせる。</p> <p>○学習カードを作成し、運動のポイントや学習の記録、仲間の動きのよさなどを書いて共有し、次の活動に生かす。</p> <p>○スモールステップの学習過程を取り入れ、学習の高まりを感じさせる。</p>
外国語	<p>○デジタル教科書を活用した視覚的資料と連動しながら動画や音声再生したことで、英語の情報を聞き取り、理解することができた。</p> <p>○英語の発表では、スクールタクトを活用し、自分のことや地域のおすすめの場所等の情報を画像で提示しながら聞き手に伝えることができた。</p> <p>○語順を意識しながら、慣れ親しんだ表現を書き写すことができた。</p>	<p>○短い話の概要を捉えることができるようにする。</p> <p>○聞き手を意識し、既習した表現や語句を用いて、自分の考えや思いを伝え合えるようにする。</p> <p>○自分のことについて、慣れ親しんだ語句や表現を用いた例の中から言葉を選んで書くことができるようにする。</p>	<p>○何を聞き取ればよいのかを明らかにし、目的意識をもった聞き方ができるように指導する。また、イラストや写真などの視覚資料を提示し、内容理解となる支援を行う。</p> <p>○ICT機器の動画機能を活用し、自分の発表を録画することで、聞き手から見た自身の姿を客観視させ、発表する際のポイントを見付ける活動を行う。また、スクールタクトやスライドを発表ツールとし、聞き手に伝わりやすい発表へとつなげる。</p> <p>○十分音声に慣れ親しんだ語句や表現を児童が書いてみたいと思わせるような授業展開の工夫を行う。</p>
道徳	<p>○資料に出てくる人物の気持ちに共感しながら発言をすることができた。</p> <p>○振り返りの時間には、学習を通して感じたことや考えたこと、学んだこと、これからどのようにつなげていきたいかなど自分自身に関して書くことができた。</p>	<p>○全体の場で自分の考えを表現することができるようにする。</p> <p>○多様な考え方や見方があることに気付くことができるようにする。</p>	<p>○個別で考えた後に交流し、最後に個人でじっくり考える時間を設ける。交流の際はICT機器を活用するなどして、全体に対して考えを発信したり、たくさんの考えに触れたりさせる。</p>